

外部評価の観点
 A：目標を達成した。 C：目標を未達成である。
 B：目標をほぼ達成した。 D：目標にかけ離れている。

番号	重点目標	評価指標	実績	自己評価	主な活動成果	次年度に向けて(校長)	外部評価
1	多角的な学生募集活動の推進による入学者の増加(教務課、養成部、研修部)	◎令和7年度入学試験合格者数 40名 【R4実績：34名(B)、R5実績：39名(A)】	30名	C	・農業関係高校との連携強化(連携会議、高校訪問、オープンキャンパス、体験カレッジ、職員間の交流促進)、1・2年生を対象とした学校訪問、体験研修の受入れを実施した。	・例年行ってきた活動は継続できたものの、目標達成には至らなかった。 ・今年度は既卒の受験生からの問い合わせが増えており、受験手続におけるデジタル化、事務手続きの改善を行う必要がある。 ・令和9年度からの教育環境整備については、アピールポイントであり情報発信が必要。	B
		◎農大訪問者やオープンキャンパス等参加者へのアンケートによるホームページの認知度確認 70%以上 【R5実績：37%(D)】	31%	D	・来訪者アンケートの実施は2年目であるが、ホームページ(HP)の認知度は低い。 ・HPの更新回数は158回となり、更新回数目標である190回には至っていない。 ・ホームページへのアクセス履歴を集約した結果、今年は8月と11月が多くなっていた。	・7月の農大カレッジ参加者までのアンケート集計では認知度50%程度であった。これは対象高校生の学年が上がるにつれて認知度が上がっているためと思われる。 ・若い年代をホームページへ誘導するために、SNSを新たに開設することが必要である。次年度開設に向けて検討を行う。	
		○マスコミ等を通じたPR回数 20回 【R4実績：16回(C)、R5実績：24回(A)】	21回	B	・飛雲祭の宣伝活動に学生たち自身で、テレビ局などに連絡して出演。 ・今年度はイズミグループにおいて、本校出荷牛の店舗での販売会へとつなげ、学生が各種マスコミに出演した。	・学生自身が時間調整や出演することは、良い経験につながった。今後も継続したい。 ・飛雲祭以外にも販売会などのイベントを計画し、学校のアピールにつなげていきたい。また、PR品目も広げていきたい。	
2	実践教育による、社会に役立つ人材の育成(養成部)	◎日本農業技術検定2級合格者(割合%) 2年生取得者40%以上(12名) 【R4実績：28%(C)、R5実績：16%(D)】	41% (12名)	A	・2年生に対しては、1年生から継続して実施した過去問を中心とした小テスト等の取組により、2級合格者が12名となった。 ・1年生に対しては、専門科目講義や実習等により知識レベルの向上を目指した結果、12月試験で全国平均点以上となった者が12名となった。また、12月試験までの2級合格者は5名となった。	・進路決定以降の試験では学生のモチベーションが低下する。このため、2年生の7月試験での合格を目指し、1年生から継続した受験対策を行う。 ・1年生への対策として、普通高校等の出身者を中心とした3級未合格者に対し、7月試験での3級受験を促す。さらに進路の決定時期が早まっている状況に対応して、1年次の12月試験での合格に向けた対策を強化する。	A
		○日本農業技術検定2級全国平均点以上達成者(割合%) 1年生全国平均点以上の学生数30%以上 【R4実績：18%(D)、R5実績：42%(A)】	36% (12名)	B			
		○プロジェクト学習の内容充実 一定水準(70点)以上の発表80%以上 【R4実績：76%(B)、R5実績：95%(A)】	100%	A			
○農家等研修の評価(35点以上の割合%) 受入農家からの一定水準以上の評価 1年生：70%以上 【R4実績：73%(A)、R5実績：90%(A)】 2年生：80%以上 【R4実績：66%(D)、R5実績：68%(C)】	1年生 74% 2年生 83%	A A	・研修先とのミスマッチを防ぎ、各学生の研修目的を明確化させるために、面談による具体的な研修先の検討や事前指導を徹底した。この結果、1、2年生ともに充実した研修を行うことができた。	・即就農、雇用就農、就職など、進路に応じた研修を実施することにより、研修先との関係が卒業後も継続するような取組を実施していく。 ・優れた農業経営及び生産技術や流通現場の状況について、学生自らが体験するという本研修の趣旨を維持しながら、受入れ農家の家庭環境の変化等に対応した研修を検討する。			
3	就農に向けた進路指導の強化(教務課、養成部)	◎就農予定者及び農業技術者 90%以上(26名) 【R4実績：93%(A)、R5実績：97%(S)】	90% (26名)	A	・卒業予定者の進路は、即就農6名、兼業就農2名、研修後就農1名、雇用就農7名、農業関係就職10名、その他就職1名、未定2名。 ・就農予定者に対しては、家庭訪問や各地域就農支援センター(振興局)と保護者との面談、就農計画策定支援を行った。 ・就職希望者に対しては、JA等及び農業法人説明会を開催するとともに、農業法人等にインターンシップを働きかけ延べ39名が参加しマッチングにつながった。	・早期の進路指導を指導してきたが、複数社インターンシップに参加するなど、なかなか就職先を決め切れない学生が見られた。 ・1年次からのインターンシップの促進、農家等派遣研修での研修先として、マッチングできそうな農業法人等へ誘導。 ・保護者との面談を通して、保護者からの学生への働きかけを促進する。	A
		○学生のインターンシップ人数 20名以上 【R4実績：21名(A)、R5実績：22名(S)】	39名	S			
4	安全意識を持った農業機械利用者の養成とながさき農業オープンアカデミー開講(研修部)	○農作業安全研修会 開催回数 30回以上 【R4実績：44回(S)、R5実績：39回(C)】	34回	A	・農作業従事者に対する講習・講演による農作業安全研修8回と、農大で実施したトラクタ(大特・けん引)研修26回の合わせて34回と計画以上の実施ができた。 ・各振興局などと役割分担し、共同開催を働きかけた。本年度は、2か所(肉用牛改良センター、五島振興局)で、現地安全研修を実施。	・トラクター(大特)及びけん引操作研修については、R元年4月の道路交通法改正から6年が経過し、大特免許の取得のための受講者は大きく減少する見込み。このため、マニュアルを作成し、講習内容は充実しながら開催回数を減らすなど効率的な運用が必要。 ・引き続き、農作業事故低減のため、各地域での研修会を各振興局と役割分担し、地域での活発な安全啓発を促す。	A
		◎オープンアカデミーの内容充実 アンケートで満足と回答80%以上 【R4実績：80%(B)、R5実績：92%(A)】	100%	S	・7~11月、計6回19講座を開催し、意欲ある農業者12名の受講者が自身の経営計画を作成、発表まで行った。 ・受講生は、経営計画を作成、発表することや講義の受講で、効率的に経営理念の重要性や経営分析、戦略立案など経営に関する知識を理解、習得できた。さらに、受講生どうしが自身の経験に基づく意見交換を実施するなどお互いに刺激を受けるとともに仲間づくりができたことなど、受講者全員から満足度が高い回答を得られた。	・カリキュラム検討委員会において、受講者アンケートの結果や振興局担当者の意見をふまえ、受講回数や開催時期、講座の内容等を見直している。さらに受講者を確保するため、わかりやすくメリットなどを記載した説明資料を作成し配布する。 ・R8年度からは、県の次期活性化計画の推進方向をふまえ、実施内容・方法を見直す必要がある。このため、次年度はその準備調整の期間とする。	

目標の難易度：◎特に困難 ○通常 △容易に達成

●評価に関するご意見、ご助言等を記入ください。

「項目評価」

【重点目標1に対して】

- ・体験型のオープンスクール(オープンカレッジ)や研修等は、生徒・保護者・職員からの評価は高いので継続していただきたい。
- ・寮が新しくなって進学しやすくなったと思う。ぜひ積極的なPRを続けていただきたい。

【重点目標2に対して】

- ・プロジェクト学習。卒業論文が充実することにより、学生の成長度も高まると思うので是非力を入れていただきたい。
- ・スマート農業技術の授業について、農林技術開発センターと協力し、充実していただきたい。
- ・人と接することが苦手な学生も多いが、農家等派遣研修を通じ社会でのコミュニケーションの大事さを教えていただきたい。

【全体的に】

- ・令和6年度卒業前アンケートで、卒業生が農業大学校を評価していることがわかった。令和7年度以降もアンケートを続けて欲しい。定性的内容もあるとさらに良いと思う。
- ・高度で専門的な知識・技術の習得と実践教育によって培った力を有する卒業生が県内各地で活躍されています。ご尽力されている校長先生をはじめ、農大全職員の皆様の取組みに心から敬意を表します。
- ・高校生が憧れる農大であってください。
- ・先生方のご努力に感謝します。農業者の育成は当然ですが、そこまでいかなくとも農業の理解者を増やすのも一つの方法だと思います。